

16 虫害松材の利用研究

堀之内 輝 男

目的

虫害松材の利用は、その殆んどがパルプ用材で、一部が建築材、製函材に使われているが現状で、工芸材として利用を試みる。

概要

- (1) 虫害材が視覚的に材質的にどのような材か。幹材、枝材、樹皮について確かめる。
- (2) 加工性の難易
切削加工、旋削加工、研削加工について検討する。
- (3) どのようなものへの利用が可能かを検討する。

成果

- (1) 虫害木であると言うイメージから、病的な感じの材質を懸念したが、試作品を通して、

松特有の健康的な明るさと重量感をもった材質である。ただ樹皮を活かしたものには、剥離し易いのが難点である。

- (2) 加工性については、切削加工、旋削加工とも一般松材と特に変りはない、研削加工については樹脂分が少なく、目づまりが少なかった。このことは松材利用において、虫害松は利点と云える。
- (3) 試作品（観光土産品的なもの、クラフト的なもの）をとおして、感じることは、一般材と同じように多くの利用が可能である。
- (4) 松材は一般的に青変菌が付き易いが、特に虫害松は多い感じがする。工芸品材として利用するならば、虫害にあった木は、できるだけ早く（葉が青い時期）伐採、製材をし、防黴処理と乾燥を急ぐ必要がある。

